

森の通信

The Miyazaki Prefectural Museum

宮崎県
総合博物館だより

第6号

発行日/平成元年3月8日

発行/宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4の4 TEL (0985) 24-2071



野尻町大萩5号土墳墓出土重弧文土器(器高33・3cm)

重弧文土器

— 美意識はまつりごとのなかに —

長い葬送の列が埋葬の地へたどり着いた。同盟関係にある各地の首長の姿も列の中に見て取れる。すでに掘られている墓穴に亡き首長のひつぎがおろされて、黄泉の国へと送られていく。真新しい土まんじゅうの上に、丁寧に運ばれてきた色々な形の土器が供えられた。首の長い端整な壺がひときわ目をひいた・・・。

千数百年ののち、大萩5号土墳墓と名付けられた、今では名を知るすべもない人物の墓から、出土したこの壺は、おそらくこのよう

にして彼の地に置かれたことでしょう。

「免田式土器」とも呼ばれるこの重弧文土器は、土器作りが端整から簡素へ移行行く中で例外的な、丁寧でしかも飾られた土器として知られています。まつりごとに使われる土器は美しい、しかしそこには作り手の自由な発想の入る余地はありません。約束事を熟練した手がつくる、個人を越えた集団の規範としての美。美意識はまつりごとのなかにひそやかに息づいていた・・・。(石川)

話題のコーナー

くるまざかにし しろ 車坂城西ノ城跡 — 宮崎学園都市所在の中世山城 —

[平成元年5月7日(日)まで展示]



(車坂城西ノ城跡近景、北側から)

「車坂城」は、宮崎市大字熊野字古城の標高20～35mの丘陵上に作られた中世の山城です。文献には、14世紀末から16世紀中ごろまでその名が記録されていますが、主に15世紀代の伊東氏と島津氏の山東(青井岳天神嶺より東側)の地をめぐる攻防戦に登場する城です。明治17年に平部崎南によって著された『日向地誌』には、車坂城について「本丸」など6区画が記録されていますが、その後、大規模な採土のために消滅したものと考えられていました。ところが、

昭和58年、県教育委員会が学園都市建設に伴ってこの丘陵地帯を踏査したところ、車坂城の一角「西ノ城」跡がまだ残っていることがわかり、発掘調査が行われました。

今回の展示では、発掘調査例の少ない中世の山城のひとつとしてこの「車坂城西ノ城」跡を豊富な写真と解説パネルを使ってわかりやすく紹介しています。また、出土遺物は15世紀前半のものが中心ですが、土師器の坏・小皿や輸入・国産の陶磁器、古銭などを展示しています。(菅付)

森のゼミナール (資料紹介)

しお つき とう ほ 塩 月 桃 甫

— 人と作品 —



「舞子」油彩 1949年

近代洋画の流れのなか、本県画壇で忘れてはならない人に、塩月桃甫(1886～1954)がいま

す。彼は「1度会うとファンになり、3度で愛好者、5度で崇拜者、心酔者になるという不思議な神通力を兼ね備えていた。」と言い伝えられています。

桃甫は、兄湯郡三財村(現西都市)に生まれ、東京美術学校卒業後、大阪、愛媛の学校に奉職した後、大正10年台湾に渡りました。図画教師として台北高校に勤務するかたわら台湾美術展を創設し、18年間審査員を務めるなど台湾の美術文化向上に大きな業績を残しました。

この作品は、彼が戦後、宮崎に引き揚げた後の昭和24年に描かれたもので、豊かな色彩と確かな描写力によって舞子のあどけない表情と華やかさを、彼の人間的なやさしい眼でとらえています。情熱的で、みずみずしい桃甫の作品群は、今でもみる人に新鮮な感動を呼びおこしてくれます。(上田)

県民文化ホールの御案内

このホールは、県民の発表の場として、音楽、演劇、舞踊、研修会、講演会、映画会など各種行事に使用できる座席数 500 の多目的ホールです。幼稚園児から、小・中・高・大学生、青年、婦人、お年寄りの方々まで、幅広い多くの団体に利用され、練習やリハーサルにも気軽に使用されています。

文化団体が使用する場合には、使用料を軽減するなどの措置がとられています。申込みは、6 カ月前の月の初日に抽選会を開いて、受付を開始しています。

県民文化ホールをより身近なものとして利用いただくよう、森の名画座、森のコンサートを



(森のコンサート、新春邦楽演奏会)

実施しています。入場料は無料です。(清武)

博物館公開講座 やさしい抽象画の見方



2月4日(土)の森の学習会、「やさしい抽象画の見方」は定員30名のところ39名の出会有り、抽象絵画の流れをスライドで学習したのち、展示中の抽象絵画を鑑賞しました。

出会者のアンケートの中から、感想を一部ご紹介します。

● 抽象画の説明を聞いて抽象画に対する「わからない」という感じがうすれてきて、絵をみるのが楽しみになりました。

絵をみる心がまえ、立ちどまって、絵のすみずみから作者の心を感じとる。おや、これは何だろうと思う。とっても絵を見る姿勢を勉強しました。(32歳・女性)

● 今まで、わかりにくかった抽象画と自分の距離がすこし近づいた気がします。

これからも、機会あるごとに、絵を見るようにしたいと思います。(62歳・男性)

博物館等連絡協議会開かれる

博物館等連絡協議会が1月31日(火)本館で開催され、県内の博物館、科学技術館、民俗資料館、美術館、動物園等の関係者24名が出席しました。

当日は、会則を制定し、会長、副会長、理事を選出、今後の施設相互の連絡、情報交換のあり方等を協議しました。

総合博物館友の会が発足

総合博物館友の会の設立総会が、1月7日(土)関係者多数が出席して行われ、会長に富永英雄氏(前公立学校長)が選出されました。

この会の目的は、館の事業に協力して、教育普及活動に寄与するとともに、会員相互の親睦と知識の向上を図ろうというものです。

焼畑農耕具など約千点収蔵展示 西米良村歴史民俗資料館



西米良村は、わが国でも古くから代表的な焼畑農耕の地域でした。険しい山が連なり、村の96%を山林で占められている上に、豪雨などによる耕地への被害が多発し、食料の確保が困難であったからです。そのため人々は焼畑を行いそれに大きく依存してきたのです。

しかし高度経済成長の波に押され、それは急速に消えていきました。そして焼畑経験者も少なくなり、焼畑用具も廃棄、消失等により数が少なくなっています。焼畑用具は自然の木や竹などの特性や形を巧みに利用し、山に生きるものの知恵と工夫の歴史が結果したものであり、それらを活用しながら営まれる焼畑農耕もまた山に生き大自然の中に生きるものの知恵と工夫の凝縮したものであったと言えます。

その先祖の生きざまと、私たちに伝えられた深い精神文化を、さらに後世に伝えてゆくために西米良村では昭和57年に歴史民俗資料館を建設し、焼畑農耕具を中心とする、民俗資料約千点（内515点は国の重要文化財指定）を収蔵展示しています。（西米良村 黒木正近）

- 案内 児湯郡西米良村大字村所
自家用車で宮崎より（219号線）……110分
TEL 0983-36-1030

~~~~~平成元年4月までの催しもの~~~~~

＜コーナー展示＞^う^つ^の宇都野標本紹介（貝類）

故宇都野新太郎氏は、昭和22年から昭和45年まで教職にあり、昭和58年69歳で死去されました。その間、主に県内の海岸で貝類を収集、研究を続け莫大な標本を集め、その死後資料を当館に寄贈されました。ここに展示してある標本はその一部で、約90科・300種・2,000点ほどです。

- 期 間 平成元年1月24日(火)～4月23日(日)まで



＜コーナー展示＞

- 考古 須恵器 3/4(木)～3/4(日)
- 歴史 江戸時代の飢肥藩 3/4(木)～3/4(日)
- 民俗 曲物用具 3/4(日)～3/4(日)
- 西都原資料館 焼畑用具（米良地方）
3/4(火)～3/4(日)
- 埋文センター 車坂城 一学園都市の中世山城ー
(入館料は無料) 3/4(土)～3/4(日)

＜県民文化ホール＞

- 森の名画座 ディア・ハンター 3/4(木)
(入館料は無料)

＜埋文センター＞

- 「遺跡をたずねて」 映写会
毎月第4土曜日、午後2時30分から約1時間
(入館料は無料)

＜民 家 園＞

- 休館日以外は常時開園 (入場料は無料)

第15回宮崎県美術展

- 3月11日(土)～3月19日(日) (月曜日休館)
- 入場料 大人 300円、中・高生 200円
小学生 100円